

科学的知見を基にした「安全」を、国民が「安心」できるメッセージに。

2012年1月19日(木)、食品安全委員会第415回会合に、1月13日に発足した野田改造内閣において食品安全担当として就任された松原仁内閣府特命担当大臣が出席され、ご挨拶をいただきました。

(注)紙面の都合上、一部を要約、抜粋させていただいています。全文はホームページの会合議事録に掲載されます。



松原 仁

内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全)

このたび食品安全担当大臣を拝命いたしました、松原仁でございます。

食品安全委員会は、平成15年の発足以来、独立したリスク評価機関として1000件を超える評価を終えられ、特に昨年は、放射性物質のリスク評価など大変な難題をとりまとめたと伺っています。小泉委員長をはじめ、委員の皆様方のご努力に心から感謝を申し上げます。

「食の安全」は、私たち一人一人の命に直結する、国政の重要なテーマの一つです。総理からも、国民の健康を守るため、関係大臣と密接に連携

し、生産から消費まで食の安全・安心を総合的に確保すること、特に、国民の不安の強い、放射性物質からの食の安全・安心の確保に全力を尽くすことが指示されております。すべての国民の皆様の「食の安全」をお預かりする役割の大きさ、職責の重さを改めて実感しているところです。

食をめぐるリスクが多様化する中、消費者一人一人がリスクを正しく理解しつつ、食品を選ぶことができるよう、科学に基づき中立公正な立場からリスク評価を行い、その結果を分かりやすく情報提供していくことは、極めて重

要な役割であると考えます。食品安全委員会が、引き続き、その機能をいかんなく発揮されることを、強く期待しております。

私は、消費者行政担当も併せて拝命しており、食品安全委員会がまとめられた「安全」に関する科学的知見を基に、国民の皆様が「安心」できるメッセージを届けたいと考えております。食の安全を守り、国民の皆様が安心して暮らしていただけるよう、邁進する決意であることを最後に申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

食品に関するリスクコミュニケーション

食品中の放射性物質対策に関する説明会

食品安全委員会では2012年1月～2月、厚生労働省との共催で全国7カ所において「食品中の放射性物質対策に関する説明会」を行いました。今回は1月16日(月)東京会場での説明会の概要をご紹介します。

説明会議事録・資料等▶ http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html

東京会場では、まず食品安全委員会から食品中の放射性物質の健康影響について、次に厚生労働省から新しい基準値と検査について、さらに農林水産省から農業生産現場における対応についての説明が行われました。

食品安全委員会からは、リスク評価の結論として、放射線による健康影響が見いだされるのは、生涯における追加の累積線量がおおよそ100mSv(ミリシーベルト)以上であること、そのうち小児の期間については感受性が成人よりも高い可能性があること、100mSv未満の健康影響については、現時点では言及が困難であることなどが説明されました。

厚生労働省からは、新しい食品中の基準値について、これまで年間の許容線量とされてきた5mSvを、

リスク評価の結論などをもとに、さらに安全と安心を確保する観点から1mSvに下げることとなったこと、検査は原子力災害対策本部のもと都道府県において行う仕組みであることなどが述べられました。

説明の後の質疑応答と意見交換では、リスク評価で示された生涯における追加の累積線量100mSvと新しい基準値の前提となる年間の許容線量1mSvの関係、新基準値に移行するまでの猶予期間、低線量被ばく



のリスク、セシウム以外の放射性核種に関する検査、小児の期間におけるより厳しい規制値などについての質問や意見などが、会場参加者と説明者の間で交わされました。

なお、ここで説明が行われた食品安全委員会のリスク評価については、本誌28号でも特集しておりますのでご参照ください。

●説明会開催実績

開催日	会場	参加者数
1月16日(月)	東京会場(星陵会館)	262名
1月24日(火)	福島会場(コラッセふくしま)	148名
1月31日(火)	福岡会場(アクロス福岡)	140名
2月6日(月)	宮城会場(仙台市戦災復興記念館)	230名
2月10日(金)	岩手会場(盛岡市民文化ホール)	155名
2月20日(月)	愛知会場(愛鉄連厚生年金基金会館)	147名
2月28日(火)	大阪会場(新梅田研修センター)	179名